

科目名	哲学のみちしるべ	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			全学科	□必修	■選択
			学科	□必修	□選択
英文表記	Introduction to Philosophy	開講年次	■1年 ■2年 ■3年 ■4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	ぜにや あきお	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	銭谷 秋生	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
講義のテーマ	哲学が、人間とその世界の何に着目し、そこにどのような問いを見出していくのかを理解できる。さらに、そのようにして見出された問いを、哲学がどのように解いていこうとするのかを修得できる。				
到達目標	1. 哲学の伝統的な問いの内容とそれを考え抜いていくための筋道をよく理解し、説明できる。 2. 講義の内容をさらに自主学修によっても消化し、そうして得た知見を踏まえて、哲学的な問いについて論理的に自らの所見を表現できる。				
授業概要	この講義では、哲学の世界で探求されている代表的な問いを取り上げ、それを腑分けしながら、哲学的に考える筋道を提示します。主として取り上げる問いは、例えば「知るとはどういうことか」や「時間はどこを流れているのか」あるいは「善や悪はどこにあるのか」といった、我々の世界理解や自己理解の構造あるいは本質を問題化する問いです。問いそのものは古典的ですが、できるだけ現代の哲学者たちの思索を参照して考察を進める予定です。				
授業計画					
第1回	イントロダクション — 哲学は何を問題とする学問なのか				
第2回	この現実には私が見ている夢ではないとどうやって言えるのか — 懐疑論からの挑戦				
第3回	この現実は何ものかが見ている夢ではないとどうやって言えるのか — 思考を意味あらしめるもの				
第4回	真理の实在論と反实在論の対立 — 真理はどこにおいて成立するのか				
第5回	何かを「知る」とはどういうことか(1) — 「正当化された真なる信念」という古典的定義				
第6回	何かを「知る」とはどういうことか(2) — 観念論からの挑戦				
第7回	何かを「知る」とはどういうことか(3) — 観念論論駁				
第8回	何かを「知る」とはどういうことか(4) — ゲティア問題				
第9回	何かを「知る」とはどういうことか(5) — 知識の因果説				
第10回	時間はどこを流れているのか(1) — 時間は实在するモノか				
第11回	時間はどこを流れているのか(2) — 時間は心の中にあるのか				
第12回	時間はどこを流れているのか(3) — 世界の言語的把握と時間の成立				
第13回	善と悪の存在論(1) — 善悪は心の中で成立するのか(道徳的反实在論)				
第14回	善と悪の存在論(2) — 善悪は心の外で成立するのか(道徳的实在論)				
第15回	善と悪の存在論(3) — 善悪はどこにおいて成立するのか				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 毎回、次回の講義プリントをポータルサイトに掲示しますから、必ず目を通してください。分からない専門用語は調べてノートにまとめておいてください。(1.5時間程度) 2. 講義で取り上げた問題について、日頃からWEBなどで関連事項を検索してください。(1時間程度)				
履修条件 受講のルール	1. 一つのテーマについて複数回連続で講義しますから、欠席しないようにしてください。 2. 毎回講義プリントをポータルサイトに掲示しますので、欠席した場合は次回まで必ず欠席した回のプリントに目を通してください。				
テキスト	特定のテキストは使いません。毎回、ポータルサイトに掲示する講義プリントに沿って講義していきます。				
参考文献・資料	参考文献として以下のものを推薦します。 『現代哲学』門脇俊介、産業図書(2002)				

	その他の参考文献は講義の中で随時紹介します。
成績評価の方法	<p>【質問票(20%)、定期試験(80%)】  上記評価項目を基にして総合的に判断します。  ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>隔週水曜日13:00~14:30  ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	<p>皆さんの多くは、子供の頃、「なぜ世界はあるのだろうか?」とか「時間はどこを流れているのだろうか?」といった哲学的な問いに襲われたことがあると思います。この講義では、そうした誰もが一度は直面する世界と人間に関する根源的な問いと、真正面から向き合います。子供の頃の好奇心を思い出しながら、受講してみてください。</p>